

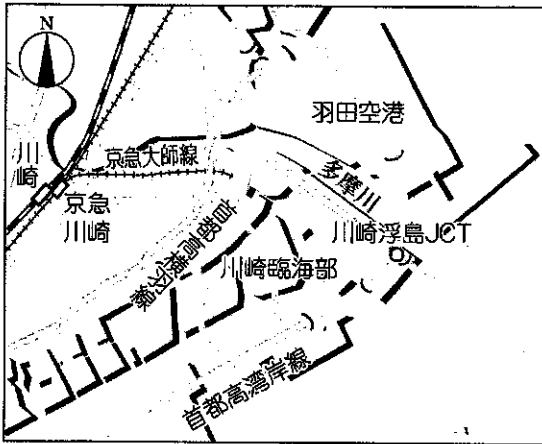
羽田―川崎連絡橋整備へ

政府方針 東京五輪を目標

政府が羽田空港と多摩川対岸の川崎方面を直結する連絡橋を建設する方針を固めたことが24日、分かった。羽田の国際化進展をにらみ、2020年の東京五輪開催までの供用開始を目指す。安倍政権の成長戦略の一環として、東京都9区と県内全域などが「国家戦略特区」に広域指定されたことも受け、羽田を玄関口とした国際ビジネス環境を整える。（高橋融生、大槻和久）

二インタビュ―2面に

戦略特区の環境改善



菅義偉官房長官（衆院2区）が24日、神奈川新聞社の単独取材に明らかにした。羽田から多摩川を越える連絡道路構想は、羽田の再拡張・国際化に伴って浮上した。京浜臨海部の再活性化を目指す県や川崎市など

も実現を要望してきたが、空港周辺の東京都大田区などに慎重な意見もあり、調整がつかない状況が続いていた。

政府は3月、区域を限定して規制を大幅に緩和する国家戦略特区に、全国6カ所を指定。このうち、東京都9区と神奈川県全域、千葉県成田市で構成する「東京圏」では、東京五輪をにらみ「世界で一番ビジネスのしやすい環境」の創出を目指すとした。県内では京浜臨海部・殿町地区を中心

に、ライフサイエンス（生命科学）に関連した研究機

研究機関集積に弾み

川崎臨海部：殿町3丁目地区と羽田空港との直結が実現する見通しとなり、成長分野として期待されるライフサイエンス（生命科学）に関連する企業、研究機関の集積に一層弾みがつくことになる。約40社に及ぶ大規模なトラック製造工場の移転から10年、悲願だったインフラ整備によりやく光が差し込んだ。

菅義偉官房長官は羽田空港の国際線増強、東京五輪開催決定といった要因を考慮し、行政区にとらわれずハブ空港を核にした広域的な成長拠点形成が必要だとの認識を空港周辺自治体に示していたという。

菅義偉官房長官は羽田空港の国際線増強、東京五輪開催決定といった要因を考慮し、行政区にとらわれずハブ空港を核にした広域的な成長拠点形成が必要だとの認識を空港周辺自治体に示していたという。

菅義偉官房長官は羽田空港の国際線増強、東京五輪開催決定といった要因を考慮し、行政区にとらわれずハブ空港を核にした広域的な成長拠点形成が必要だとの認識を空港周辺自治体に示していたという。

関や企業の集積が進んでいる。

菅義偉官房長官は特区の広域指定により「（神奈川と）東京都や大田区との連携も可能になった」として、羽田強化に向けた一体的な取り組みの必要性を強調。「羽田は海外の利用者が一挙に増えた。以前に比べて国際化が一気に進んでいる」として、早期の連絡橋整備に注力する意向を示した。

神奈川新聞

2014年[平成26年]

5月25日[日]

という思惑が見え隠れしていた。首長も当時から「新羽田空港を核にした成長拠点の形成」という政治判断を自治体側が首都圏全体の新たな発展に結びつけられるかどうか、大局的な連携が問われることになる。（宮崎 功一）

菅義偉官房長官(衆院2区)は24日、神奈川新聞社のインタビューに答え、地域を絞って大胆に規制を緩める「国家戦略特区」に神奈川県全域が「東京圏」として指定されたことを踏まえ、「神奈川では『さがみロボット産業特区』も動き始めている。この動きを(東京圏として)対象にすることも十分考えられる」と

の認識を示した。県、横浜、川崎市が共同提案した健康・未病や最先端医療産業の創出に加え、相模原・県央や湘南地域を中心に取り組むロボット産業も巻き込み、「神奈川全域で国際ビジネス拠点のチャンスを広げたい」と意欲を語った。主な一問一答は次の通り。

(大槻和久、高橋融生)＝本記1面に

菅官房長官インタビュー

戦略特区「ロボットも」

県全域国際ビジネス拠点に

「全国6地域を指定した国家戦略特区の狙いは。」

「医療、農業などの岩盤規制に風穴をあけ、世界から人材、企業、資金を呼び込む。ポウリングで言えばセンターピンを狙って、この6地域でまず改革を進める」

「『東京圏』における神奈川の位置付けは。ビジネス環境の整備はどう進めるか。」

「神奈川では特に、病床規制の緩和、外国人医師の診療解禁、保険外併用療養の拡充に期待したい。県全域が指定されており、ロボット産業の集積を含めるな

「全国6地域を指定した国家戦略特区の狙いは。」

「医療、農業などの岩盤規制に風穴をあけ、世界から人材、企業、資金を呼び込む。ポウリングで言えばセンターピンを狙って、この6地域でまず改革を進める」

「『東京圏』における神奈川の位置付けは。ビジネス環境の整備はどう進めるか。」

「神奈川では特に、病床規制の緩和、外国人医師の診療解禁、保険外併用療養の拡充に期待したい。県全域が指定されており、ロボット産業の集積を含めるな

「急な都知事の交代で、東京の計画が遅れているのは事実だが、神奈川県知事や横浜、川崎

「急な都知事の交代で、東京の計画が遅れているのは事実だが、神奈川県知事や横浜、川崎

「急な都知事の交代で、東京の計画が遅れているのは事実だが、神奈川県知事や横浜、川崎

「急な都知事の交代で、東京の計画が遅れているのは事実だが、神奈川県知事や横浜、川崎



神奈川新聞社のインタビューに答える菅官房長官
＝24日、東京都内のホテル(花輪 久写す)

両市長とも意欲的で、東京圏全体として連携できる態勢ができている」

「黒岩祐治知事が意欲を示す国際的医療人材の養成機関の設置に関する「医学部の検討」は、成田市が有力になっている。」

「成田は医学部新設で、黒岩知事の(医学部以外の大学卒業者を国際的医療人材として養成する)メデイカルスクール構想とは違う。すみ分けは可能で、今後の検討課題になる」

経済波及効果を期待

羽田―川崎 県内首長ら「悲願実現」 連絡橋整備

羽田空港と川崎市側を直結する連絡橋を2020年の東京五輪までに整備する方針を政府が示したことを受け、京浜臨海部の国際戦略を描く県や川崎、横浜市の各自治体トップは25日、一様に歓迎の意向を示した。前首長時代に浮上した連絡道の整備構想から10年、「ついに、悲願が実現した」(県幹部)空の玄關との「一体化」に、人や企業の集積による経済波及効果への期待を高めた。連絡橋の整備方針は菅義偉官房長官(衆院2区)が24日、本紙取材に明らかにした。

「羽田から数分の立地は、海外企業の集積に向け非常に強力な力。国際戦略を加速させる上で大変な追い風になる」。黒岩祐治知事は、神奈川全域を含む「東京圏」が国家戦略特区に指定されたことに絡め、「あらゆる

面で大歓迎」と述べた。知事就任時から「橋ありき」の議論を避けてきたといい、「エリアの魅力を高めることに全力を投じてきた。羽田とつなげるだけのメリットが出てきた」と受け止めた。連絡橋の位置や

周辺の基盤整備など「全体的な絵は今後描く」としながらも、関係自治体と連携しスピード感を持って臨む考えを示した。

川崎市の福田紀彦市長は「菅官房長官のリーダーシップと決断に感謝したい」とした上で、「地元としてやれることは最大限に汗をかきたい」と、20年までの実現に意欲を示した。

昨秋の市長就任後、公務として最初に会う首長に選ぶなど連携強化を図ってきた東京都大田区との関係については、「共通の理解を持って一緒に進めていきたい。どんなスキームで橋を

架けるかはこれからだが、国任せにせず、地元として汗をかきたい」と述べた。

横浜市の林文子市長は「3県市の国に対する働きかけの成果が結実した。活気あふれる横浜を実現し、日本の成長戦略に貢献していく」とコメントした。